

A decorative graphic consisting of a dashed line that starts from the left, loops around to form a shape similar to a stylized 'e' or a swirl, and then extends towards the right side of the page.

## はじめに

この本は、現代社会におけるさまざまなトピックを扱いながら、それに対して社会的にアプローチしていくものです。社会学の観点からの現代社会論の本、あるいは現代社会の探究を通して社会学を深めていく本ということになるのですが、社会学という学問についてまだ何も知らなくても大丈夫です。誰もがスムーズに読み進めることのできる本になるよう努めました。それぞれの章の執筆者は、自分が今、一番書きたいことをテーマに選び、それに対して本格的な掘り下げを行っています。その一方で、それができるだけ多くの方々のもとへと届くよう心がけましたので、どうか気軽に読んでもらえればと思います。

私たち社会学の研究者の多くは大学で授業を担当していますが、そこで望んでいるのは、まずは学生さんたちが社会学という学問で存分に楽しんでくれることです。またそれは学外でも同様です。社会学を大学で専攻している人であっても、そうでなくても構いません。社会学への興味の持ち方はさまざまでしょう。誰かから聞いて社会学という名前をはじめて知ったり、ネットで社会学関係の議論を何となく眺めたり、ソーシャルメディアやマスメディアで評論家が社会学っぽい話をするのに接したり……。そうした中、何かのご縁でこの本に目を通して、社会学って面白いなあ、と感じてもらえれば、もうそれだけでとても素敵なことにちがいません。

ただ、その一方で、社会学を大学で勉強したいと思ったり、実際

に大学で社会学関係の科目を履修していたり、また大学の外であったとしても社会的な探究を深めたいと考えるのであれば、“社会学で楽しむ”というだけでなく“社会学で楽しませる”ということにも是非とも思いを馳せてもらえれば、と思います。人がやっているダンスを観て、バンドを聴いて、スポーツを観戦して感銘を受けるというのはよくあることでしょう。ですがオーディエンスとして接するのと、自分でやってみるのとではだいぶ違います。ダンスでもバンドでもスポーツでも、自ら演ずるのであれば、それぞれ独特の方法を学ばなければならず、そこでは各種の基礎練習が必要不可欠となります。思えば大学でも理科系や芸術系や体育系であれば、鑑賞者の立場に留まっているわけにはいきません。これに対して人文・社会系はかなり緩いというのが実状ですが（そしてそれは一概に悪いことではないのでしょくけれど）、しかし社会学でも自分自身で学問的探究を深めることができれば、世界は随分と拡がり、そして社会の見通しは格段によくなります。この本では、いろいろな現代社会の諸側面を検討することを通じて、概念やモデルやデータを用いた学問的なアプローチの仕方が自然と身につくよう心がけました。これによって読者1人ひとりの社会的想像力が豊かになるよう願ってやみません。

この本の企画に際し、私たち編者3人が思い描き、そして各章の執筆者と共有したイメージは次のようなものです。

- ・現代社会の諸々のトピックの探究を主眼としながらも、それが社会学の理論や諸々の概念とどのように関係しているのか、ある程度は学べるように工夫をする。
- ・通常のテキストとはちがって、注をつけ、文献挙示もしっかりと行い、そのまま真似ることでアカデミック・ライティングの

基礎が身につくようにする。

- ・ただし内容的には初学者が楽しく読み進めることができるものとする。

執筆者一同、読者の方々のことを思いながら懸命に頑張り、しかく楽しく、各章に取り組みました。章立てに関しては、どの章から読んでも構わない構成になっています。それぞれの興味にしたがって読み進めてください。

また付録には、レポートの書き方や、社会調査に関して知っておくべきことなど、大学生にはもちろんのこと、高校生にも社会人にもきっと役に立つであろう情報を載せておきました。いずれも手法に関することですが、これをマスターし、それをもって皆さん方1人ひとりの課題に果敢に挑んでいただければと思います。

いま、ともに考える社会学——現代社会論・入門。社会学とは、ひと言でいえばまさに「いま、ともに」あるそのありようについて深く探究する学問です。現代社会のさまざまな側面について一緒に考えていきましょう。

なお、この本を世に出すにあたっては、企画や執筆者会合の段階から最後の仕上げに至るまで、編集の松井智恵子さんをはじめ有斐閣関係の方々に大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2025年5月

執筆者を代表して

山田真茂留

有田 伸

中村 英代

## 執筆者紹介

---

**山田真茂留** (やまだ まもる) 編者 第1章, 付録1, 2, 3

早稲田大学文学学術院教授

主著:『集団と組織の社会学——集合的アイデンティティのダイナミクス』  
世界思想社, 2017年。『社会学の力——最重要概念・命題集』〔改訂版〕  
(共編)有斐閣, 2023年。

**有田 伸** (ありた しん) 編者 第2章, 付録1, 2, 3

東京大学社会科学研究所教授

主著:『就業機会と報酬格差の社会学——非正規雇用・社会階層の日韓比較』  
東京大学出版会, 2016年。*Education and Social Stratification in South Korea*,  
東京大学出版会, 2020年。

**中村 英代** (なかむら ひでよ) 編者 第7章, 付録1, 2, 3

日本大学文理学部社会学科教授

主著:『依存症と回復,そして資本主義——暴走する社会で〈希望のステップ〉  
を踏み続ける』光文社新書, 2022年。『嫌な気持ちになったら、  
どうする?——ネガティブとの向き合い方』ちくまプリマー新書,  
2023年。

**是永 論** (これなが ろん) 第3章

立教大学社会学部教授

主著:『見ること・聞くことのデザイン——メディア理解の相互行為分析』  
新曜社, 2017年。『エスノメソドロジー 住まいの中の小さな社会秩序  
——家庭における活動と学び』(共編)明石書店, 2021年。

**永井美紀子** (ながい みきこ)

第4章

國學院大學・法政大学兼任講師

主著：『信頼社会のゆくえ——価値観調査に見る日本人の自画像』（共編）  
ハーベスト社，2007年。「個人化社会における宗教的集合性——アメリカ的文脈把握の試み」（共著）『年報社会学論集』27，2014年。

**森 千 香 子** (もり ちかこ)

第5章

同志社大学社会学部教授，同志社大学都市共生研究センター（MICCS）  
センター長

主著：『排除と抵抗の郊外——フランス〈移民〉集住地域の形成と変容』  
東京大学出版会，2016年。『ブルックリン化する世界——ジェントリ  
フィケーションを問いなおす』東京大学出版会，2023年。

**草柳 千 早** (くさやなぎ ちはや)

第6章

早稲田大学文学学術院教授

主著：『「曖昧な生きづらさ」と社会——クレイム申し立ての社会学』世界  
思想社，2004年。『日常の最前線としての身体——社会を変える相互作用』  
世界思想社，2015年。

# 目 次

はじめに ..... i

第 1 章 アイデンティティのよりどころ ..... 1  
個人化する社会のゆくえ

1 個人化の深まり ..... 3

- (1) 現代を見透かす眼 (3)
- (2) 共同体からの解放と社会からの遊離 (5)
- (3) 柔軟で個別的なコミュニケーション (7)

2 揺らぐアイデンティティ ..... 8

- (1) 同一化の困難と簡便なアイデンティティ (8)
- (2) 集合性の調達 (11)
- (3) 集合的アイデンティティのうごめき (13)

第 2 章 日本社会の就職の仕組み ..... 19  
働く力をどう養い、評価するか

1 日本の新卒一括採用制度は何が特徴的なのだろうか ..... 21

- (1) 「学校から仕事への移行」という課題とその社会的埋め込み (21)
- (2) 比較を通じて見る日本の新卒一括採用制度 (22)

2 新卒一括採用と日本的雇用慣行との間の制度的補完性 ..... 26

- (1) ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用 (26)
- (2) 日本の新卒一括採用制度とメンバーシップ型雇用 (29)

3 よりよい就職の仕組みをどう築いていくか ..... 31

- (1) 日本の新卒一括採用制度の帰結 (31)
- (2) 変化する世界の中での解決の方向性 ― よりよい仕組みをめざして (33)

**第 3 章 メディアでスポーツを見ること** ..... 37  
女子サッカーにおける「ゲームの楽しみ」に向けて

- 1 多様なスポーツ経験** ..... 39
  - (1) スポーツを見ること (39)
  - (2) スポーツの人気を支えるもの (40)
- 2 女子サッカーの歴史と現状** ..... 43
  - (1) 近代スポーツの歴史の中で (43)
  - (2) サッカーのグローバル化を背景とした現状 (44)
- 3 ゲームとしてのスポーツ** ..... 46
  - (1) 世界を作り出す実践 (46)
  - (2) 戦術という世界 (50)
- 4 ゲームの楽しみに向けて** ..... 53

**第 4 章 社会の中の宗教** ..... 57  
宗教のトリセツ

- 1 私たちの周りにある宗教的なもの** ..... 59
  - (1) 宗教的なものへの無自覚的な関わり (59)
  - (2) 宗教・宗派所属と宗教的行動 (61)
  - (3) 「無宗教」の意味 (63)
- 2 宗教の扱い方** ..... 66
  - (1) 日本社会における宗教の多様性 (66)
  - (2) 新宗教の台頭とその後 (67)
  - (3) 「宗教 2 世」問題をめぐって (68)
  - (4) 想像力と気づき (70)

第 5 章	〈移民〉とは誰なのか	75
	社会学の視点で考える	
1	賛否の前に理解する	77
	(1) 激動する世界、矛盾する動向、混迷する未来 (77)	
	(2) グローバル化と視点としての〈移民〉 (78)	
2	なぜ人は移民するのか	80
3	多様化する移動	83
	(1) 先進国からの移民の増大 (83)	
	(2) 移民となる日本人の過去と現在 (85)	
4	社会学における移民の視点とは	88
第 6 章	共在と身体の両義性	93
	他者とともにいるとき／ところ	
1	通信でなく直接会うこと	95
2	共在の秩序	97
	(1) 共在の秩序と身体 (97)	
	(2) 身体のリトリリー (縄張り) (98)	
	(3) 「ノーマル」であること (99)	
	(4) 秩序違反と身体の両義性 (101)	
3	「危険」とリスク管理	102
	(1) 危険と警戒と恐怖 (102)	
	(2) リスク管理と危険の排除 (104)	
4	いま、ともに他者といること	106
	(1) いまここの暗黙のコラボレーション (106)	
	(2) 共在の創造的可能性 (108)	

第 7 章 資本主義社会を理解する	111
自分の「社会的位置」を知る	
1 なぜ、資本主義社会について学ぶのか	113
2 資本主義社会とはどのような社会か	114
(1) 資本主義社会の特殊性 (114)	
(2) 価値増殖を目的とする運動体としての資本 (117)	
(3) 資本主義社会が成立するための 2 つの条件 (121)	
3 自分の「社会的位置」を知る	122
付録 1 レジューメ・レポート・卒論の書き方	131
付録 2 質的調査とは何か	145
付録 3 社会調査データの計量分析	151
索引	163
事項索引 (163) 人名索引 (167)	

## この本の使い方

- ・どの章から読んでも構いません。また本文だけ読んでいくというのでも大丈夫です。
- ・各章の扉には本文と関係したクイズが2つずつ用意されています。トライしてください。答えと解説は扉の裏面にあります。
- ・扉の裏面には章の概要も載っています。
- ・さらに扉の裏面には本文で登場する社会学の重要概念も列挙してあります。それぞれの解説はウェブサポートで行っています。
- ・各章の中身に関しては、専門論文を書く際のスタイルにしてあります。注のつけ方、文献の挙げ方などについては、「社会学評論スタイルガイド」に準じています。各章の書き方をそのまま踏襲することで、レジュメ・レポート・卒論の執筆に活かすことができます。
- ・付録には、「レジュメ・レポート・卒論の書き方」「質的調査とは何か」「社会調査データの計量分析」を載せてあります。
- ・ウェブサポートでは、本書で用いた重要概念の解説のほか、社会学的なものの見方に関する説明、大学における社会学系の科目群の紹介、学会や関係諸機関の一覧など、さまざまな情報に接することができます。

### /// ウェブサポートページ ///

学習をサポートする資料を提供しています。下記のQRコードを読み込み、ご参照ください。

[https://www.yuhikaku.co.jp/yuhikaku\\_pr/y-knot/list/20018p/](https://www.yuhikaku.co.jp/yuhikaku_pr/y-knot/list/20018p/)



# アイデンティティの よりどころ

個人化する社会のゆくえ

第

1

Chapter  
章

## Quiz クイズ

- Q1.1** 国勢調査をもとにした計算によって、50歳時点での未婚者の比率が割り出されているが、その値は1980年においては女性4%、男性3%だった。ではそれから40年後、2020年にはどの程度になっただろうか。
- a. 女性 16%、男性 12%   b. 女性 12%、男性 18%  
c. 女性 18%、男性 28%
- Q1.2** 光ファイバーなどを用いた高速で大容量のインターネット回線のことをブロードバンドという。では日本でブロードバンド元年と呼ばれるのは何年か。
- a. 1991年   b. 2001年   c. 2011年

## Answer クイズの答えと解説

### Q1.1 c

50歳時点での未婚者の割合は、1980年＝女性 4.5%、男性 2.6%、2000年＝女性 5.8%、男性 12.6%、2020年＝女性 17.8%、男性 28.3%と、女性・男性ともに激増しています。今や、結婚というものが当たり前の世の中ではなくなってきました。

### Q1.2 b

ブロードバンドが普及する以前、インターネット接続は電話回線を介してなされていました。ブロードバンドによって社会のインターネット化は劇的に進みます。これで人々は、以前よりもずっと簡単に時空を飛び回ることができるようになりました。

#### □ この章での試み

これからの人生行路が、生まれによってほぼ決められていた時代がありました。また育ちによってかなり予測できるような時代もありました。しかし今や何でもありの時代。そうしたなか、人々のアイデンティティがどのようなになっているのか、探ってみましょう。

#### □ Chapter structure 本章の構成

- 1 個人化の深まり
- 2 揺らぐアイデンティティ

#### □ この章に登場する重要概念（解説はウェブサポートで）

- \* 社会圏の交差
- \* 鏡に映った自己
- \* 一般化された他者
- \* 大衆

# 1

## 個人化の深まり



### (1) 現代を見透かす眼

現代は分別や反省が幅をきかせる時代であり、諸個人は一時的な感激と冷淡な無感動の間を行ったり来たりしている。そして人々はしばしば互いを意識した張り合いを演じる。社会の水平化が進んだ今日では、誰もがそれなりの意見をもち、それを発することができ、そこで大事になるのは数の力だ。人数さえ揃えば、中身の無い見解でも大きな影響力をもつことになる。現代社会では抽象化された公衆の存在が際立ち、また広告や宣伝が至るところに溢れている。そうしたなか、人々はひたすら周りのことを気にする。今や恋愛に関してもマニュアルがあるような時代だ。

さてこれは SNS 時代に関する今日的な社会評論だろうか。そうではない。実はすべて、社会学的なセンスに溢れたデンマークの思想家 S. キェルケゴールが 1846 年に公刊した著書の中で述べたことだ (Kierkegaard 1846=1981)。今日、友だち作りにしても、趣味にしても、恋愛にしても、就活や転職にしても、上のような言葉が当てはまる場面は数多く見つけることができよう。横並びに個人化した人々が、確たる指針がもてないまま、自らを振り返る思いばかりを空回りさせ、主体的な行動力を発揮することができず、そして大勢の振る舞いに過度に合わせてしまうといった事態。この本は 20 世紀を予見した書ともいわれていたが、さらに今世紀をも見通していたかのようなのである。では次のような言辞はどうだろう。

前近代社会において結婚は共同体による制約を強く被っており、

配偶者の範囲は限られていた。しかしその時代、人々は、出生や身分などに関して限定された枠内であれば、双方の思いなどといったことにとらわれることなく、随意に相手を選ぶことができた。これに対して今日の社会では、配偶者の選択は地域社会や親族集団の思惑を離れ、各人の思いによって自由に行うことが可能だ。しかしこの個人選択は制度的な拘束からの解放を意味する一方で、自らの人格による制約、本人自身による束縛をもたらすことになる。現代人は、結婚相手を決める際、相当な緊張感を強いられているのである。

今を生きるわれわれの姿を的確にとらえているともいえるこの記述は、哲学的素養に富んだドイツの社会学者 G. ジンメルが百年以上も前、1908 年刊行の本において論じたものである (Simmel 1908 =1994 : 下, 325-6)。彼は近代社会における「個人的な自由は個性によって制限された自由である」と説く (Simmel 1908=1994 : 下, 325)。个性的であれと説かれて右往左往し、友だちを作るにも恋人を選ぶにも互いの本当の思いを確かめるべく大変な努力を払い、そして勉強上でも仕事上でも何をしてその結果は自己責任だといわれてプレッシャーを感じる毎日。そうした経験を少なからずしたことのある現代人なら、このジンメルの議論に触れて大きくならずく人も少なくないだろう。

SNS の存在などももちろん夢想すらしなかった時代に、大衆的な他者志向のはらむネガティブな側面を憂っていたキェルケゴール。そして、個性を煽る志向に倦み疲れる人も、唯一無二のパートナーを選ぶのに苦勞する人もまだそれほど多くはなく、未婚化や少子化が社会問題ではなかった時代に、個人選択の大変さについて言及していたジンメル。彼らの洞察力の深さは驚嘆に値しよう。

## (2) 共同体からの解放と社会からの遊離

政治的にも経済的にも社会的にも文化的にも自由で平等な個人が社会の基本的な単位となり、その自律性が尊重されるようになったのが近代社会である。その結果、人々は伝統的な共同体の課す束縛から解き放たれ、個人として主体的な選択ができるようになった。しかしその反面、自由の重みに耐えきれなかったり、1人で思考し、また行為することの厳しさや寂しさに打ちのめされたりして、周囲の人々の考えや振る舞いに安易に迎合してしまうといった問題も生起することになる。ケルケゴールやジンメルが描き出したのは近代社会が遍く抱えている問題にほかならない。近代的な個人主義にはプラスの面もマイナスの面もある。

ただし個人主義の理念をベースとした個人化は、近代初期からその様相を変えなかったわけでは決してない。それは今日に至るまで相当な深化を遂げている。ここでは個人化を3つの段階に整理してみよう。まず第1の個人化だが、これはひとえに村や家といった伝統的な共同体からの解放を意味していた。前近代社会においては家族の持ち方や仕事への就き方も含め、人々の人生行路は、旧来型の共同体によってほぼ決められており、個々人が自由意志を働かせる余地はあまり残されていなかった。ところが近代化にともなって個人の自律性が賞揚され、また特定の目的達成を志向する機能集団としての組織がたくさん作られると、諸個人は自ずと複数の集団に同時に所属するようになる。社会的な機能分化が進み、集団の数が増えるとともに、その規模も大きくなり、そして数々の社会圏が重なり合うような事態を目の当たりにしたジンメルは、これを「社会圏の交差」と呼んだ (Simmel 1908=1994: 下, 6章)。ここにおいて各人は関与している諸々の社会圏の影響を被り、それによって豊

かな社会性を身につけていく。しかし、人々が等しく単一ないし少数の所属共同体の色合いに染め上げられていた伝統社会の場合とは異なり、数多くの集団に参加している近代人は、さまざまな集団の色を独自に配合しつつ自らを作り上げているため、1人ひとりにはそれぞれ特有の色彩が認められる。近代社会において諸個人は幾多の社会圏と関わるとともに、大いなる個性を発揮しているのである。

次に第2の個人化だが、ここで重要なのは諸々の制度による制約が緩み、社会から遊離した人々の個我の流動性と反省性が高まったということである。P. バーガーらによれば、近代のアイデンティティは、①異様に未確定で、②異様に細分化されており、③異様に反省的で、④異様に個人化されている (Berger, Berger and Kellner 1973=1977 : 85-8)。第1の個人化によって共同体による縛りを脱した人々は、一方で各種の集団を経めぐって、そこからさまざまな養分を吸収しつつも、旧来型の村や家による支えを失ったことで、ある種の不安定さを抱えることとなる。さらにこれに追い打ちをかけたのが、近代社会それ自体の確からしさもまた揺らいできたことだ。U. ベックは「人間は、産業社会の諸形態——階級、階層、家族、男女の性差状況——から解放される」という時代認識が浸透しつつあると説き (Beck 1986=1998 : 138)、これによって個人化が一層進んでいる状況を活写した。また A. ギデنزは、近代的理性のほらむ疑いのまなざしは近代的理性それ自体に対しても向けられるようになったと論じ (Giddens 1990=1993 : 56-7)、さらにそうした時代において人々は自らのありようについても絶えず反省的に確認し続けなければならないと指摘している (Giddens 1991=2021 : 3章)。もはや、会社に入れば一生安定、結婚すればずっと安心という時代ではない。

### (3) 柔軟で個別的なコミュニケーション

ただし話はこれで終わらない。第3の個人化である。すでに電話、自動車、高速鉄道、航空機の発達によって人々が特定の場所に縛りつけられる程度は低まっていたわけだが、その後のICT（情報通信技術）の発展の影響は著しく、これで普通の人々が日常的に時空を超えるという事態が当たり前になった。日本の場合、ブロードバンド元年と呼ばれる2001年から電子メールやインターネットがきわめて身近なものとなり、そして2010年以降、スマホが劇的な普及を遂げることとなる。これによって社会の基盤となるコミュニケーションのありようも大きく変化した。加速をキーワードにした社会理論で知られるH. ローザは、モバイル機器の発達によって、誰かと会う際の約束は必ずしも厳密な計画を必要とはしなくなったと指摘する。時間も場所も、その時・その場で柔軟に再調整（リスケ）すればいいからだ（Rosa 2005=2022：294-5）。また、各種モビリティ研究を推進するJ. アーリも同様に、モバイル機器を使用することで、諸個人それぞれには個別的な中間的空間が生まれ、また時間調整が流動的になったと論じている（Urry 2007=2015：255-63）。

そしてスマホで誰かとつながっている際、人は眼前にいる（今ここの）他者との関係を適宜断ち切っている。このとき、よりリアルなのは電子空間上のネットワークと、そこでの行為者の方だ。しかし、まさにそのインターネット空間では、制度も組織も集団も個人もときに（あるいはしばしば）記号化され、電子的な漂いを見せることになる。ネットショッピングでは、いったい誰が何をどこから買ってどのような人に届けてもらっているのだろうか。それぞれにとって各々は単なる記号にすぎない。その意味で社会的なりアリティ感覚は、今日きわめて曖昧なものとなっている。

## レジュメ・レポート・卒論の書き方

### 大学におけるゼミとレジュメ

大学で学ぶ際、ゼミでの活動が重視されることが少なくありません。ゼミと呼ばなくても、演習形式の授業はたくさんあるでしょう。ゼミナール（ドイツ語）やセミナー（英語）といわれるもの一般。それは少人数での研究会方式の授業運営のことをさします。ラテン語の語源までさかのぼれば、そこには何かを生み出す種といった意味合いもあるようです。ゼミは、学生による発表が中心となる楽しい探究の場です。また演習ということでは、この種の授業では本番（つまりは学会など多くの聴衆を前にした研究発表）さながらの実習をしている、という意識でいるといいかもしれません。

さてゼミをはじめ演習形式の授業では、報告の際にレジュメを用いることがほとんどです。レジュメとは要約、概要のことを意味するフランス語です。この語はビジネスの場でも使われますが、大学ではたいていの場合、学生が自分で実施した文献講読や独自の研究の成果を文書の形にまとめたものをさします。

ゼミでは、パワーポイントの資料を用いただけの報告ということもありえなくはないのですが、レジュメを人数分配付ということもよくなされます。ちなみに多くの学会発表の場合、パワポを用いた口頭報告の裏には、詳しいレジュメが、またそのさらに裏には完全原稿の論文が用意されているということも知っておいていいでしょう。

### レジュメの種類・レポートへの応用

レジュメの様式には、簡条書き方式のものとフル・ペーパー（すべて文章化した論文タイプの原稿）方式のものとの2種があります。簡条書き方式の利点は見た目のわかりやすさに、またその難点は細かいところのわかりにくさにあります。フル・ペーパー方式の利点と難点は、ちょうどそ

の逆となります。どちらのやり方にも慣れておくといいでしょう。

ところで大学の講義ではレポートの提出が課されることがよくありますが、それはフル・ペーパー方式のレジюмеと変わりありません。ここでフル・ペーパー方式に慣れておけば、それをそのままレポートの作成に活かすことができます。

## レジюмеの冒頭

レジюмеの一番上には科目名と日付、そして発表者の名前を明記します。たとえば、文献講読的な発表で、1冊の研究書について報告する場合、次のような形となります。

○○演習△△報告 \*\*\*\*年\*\*月\*\*日

文献報告（対象文献）：

Zygmunt Bauman, *Liquid Modernity*, Polity Press, 2000. (森田典正  
訳『リキッド・モダニティ——液状化する社会』大月書店, 2001.)

3年：\*\* \*\*

## 学問の基本

学問の基本は研究発表にあります。それは文系・理系を問いません。そして発表に値する研究はオリジナルなものでなければなりません。そのオリジナルな探究を行うに際しては、論理的な展開がしっかりしていること、また確固たる経験的な（つまりは現実世界における）証拠による裏づけがなされていることがとても大事になってきます。

学術研究の世界には、諸々の概念やモデルの検討を中心とするものや、調査データの分析を主眼とするものなど、さまざまなタイプが認められます。ただし理論・学説研究の場合も、現実世界との関連を常に意識していることが必要となります。また調査研究の場合も、理論的な含意がどのあたりにあるかを必ず念頭に置いておかなければなりません。

## 先行研究への言及とオリジナリティ

大学のゼミでの報告には、誰かの研究の紹介を中心とする場合もありますし、また発表者独自の思考の展開を示すことを第1の目的とする場合

もあるでしょう。そのいずれにおいても、当の発表レジュメの記述のうち、どこまでが他の人によるもので、どこからが自分自身のものなのか、はっきりと示す必要があります。

独自の研究発表を行う際に一番大事なのは、自分自身のオリジナルな論述です。ただし、他者が行った研究への言及や、既存の研究書からの引用が多くなったりすることもあるでしょう。そうした場合も、ルールに則って出典を明記していれば、それで大丈夫です。本や論文への言及や引用が多ければなおさら、自分のオリジナルな部分の輪郭がはっきりし、その価値は高まっていきます。ちなみに何らかのテーマを定めて研究を行う場合、まずやるべきは先行研究の探査であり、またその吟味と紹介です。そうした作業を行ってこそ、先行研究群との違いから、自身のオリジナリティが際立つことになるでしょう。

レジュメでは（またレポートでも卒論でもそうですが）、歴史的事実や他者の見解を長々と紹介する場合があるかと思います。そういった際にも、それが誰かによる記述の紹介であること、そしてその紹介がどこから始まり、どこで終わるかということを明確に示さなければなりません。

ちなみに他者の議論のコピペ（剽窃）はありえないことですが、自身が他の科目で提出したレポートをそのまま流用するというのも自己剽窃にあたります。多くの大学では類似度判定ソフトが導入されており、そうした不正に対して厳正な対処がなされるようになっていきます（ただし、自分のレポートを卒論の一部に組み込むことなどが許される場合もあります）。

## 役に立つマニュアル／サイト

論文の書き方全般については、日本社会学会が出している『社会学評論スタイルガイド』がとても役に立ちます。この名前を検索すればウェブ上で見ることができます（PDF版をダウンロードすることも可能です）。大学でレジュメを書くとき、レポートを出すとき、卒論に取り組むとき、ぜひ参考にしてください。

なお、この『社会学評論スタイルガイド』が絶対というわけではありません。ただし、いかなる方式に従うにせよ、自分が書いているレジュメやレポートや卒論などの内部では、必ず一貫したやり方に則って形を整えるようにしましょう。

【y-knot】

いま，ともに考える社会学——現代社会論・入門

*Thinking Together: An Introduction to Sociology*

---

2025年6月30日 初版第1刷発行

編者 山田真茂留・有田伸・中村英代  
発行者 江草貞治  
発行所 株式会社有斐閣  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17  
<https://www.yuhikaku.co.jp/>  
装丁 高野美緒子  
印刷 株式会社精興社  
製本 大口製本印刷株式会社  
装丁印刷 株式会社享有堂印刷所

落丁・乱丁本はお取替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

©2025, Mamoru Yamada, Shin Arita, and Hideyo Nakamura.

Printed in Japan. ISBN 978-4-641-20018-0

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

**JCOPY** 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(一社)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mailinfo@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。